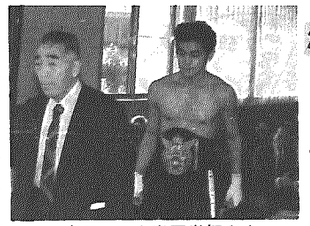
ボクシング

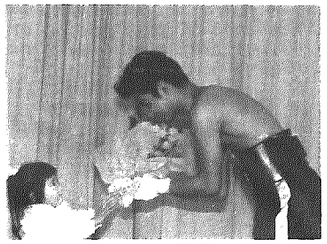
世界をめざせ田村知範選手 ファンクラブが激励大会


会長　五十嵐要栄智さんと入場する田村選手

全日本フライ級チャンピオン、田村知範選手(21)のファン激励大会が、三月八日(日)、新田コミュニティーセンターで開催され、ファン80名余が激励にかけつけ、会場は、満員御礼の盛況でした。

当日は、浅見村長以下村四役、石塚県議、坂内村議会議長も激励にかけつけ、「素晴らしい快挙だ。横越の血をひいた男が全日本を制覇した。次は世界制覇を約束してほしい」「青少年に夢を与えつづけてほしい」などのあいさつがありました。

また、チャンピオンに対してインタビューの中で、横越村をどのように思っていますかというのに対して、「あったかい、いい村」、今日のファンクラブ激励大会の感想はというのに対して、「本日はどうもありがとうございました。皆さんの応援をエネルギー源にして今後の練習や試合に頑張りたい。今の力では世界に通用しないが、これから精進して東洋や世界へと上を狙っていきたい」と決意表明を述べると参加者は、力強い拍手を送っていました。


おにいちゃん　頑張ってネ！

社会教育ガイド

4月の中央公民館事業

〈会場は中央公民館〉

■絵画教室
期日　4月13日(月)、27日(月)
時間　午前10時
講師　上野キミ氏

生きる模索の灯り(第15集)
自費出版

木津中　山田　正三さん(73)

昭和48年から「生きる模索の灯り」を出版して以来、今回が第15集。

今回は、「人間讃歌」特集で序文を横越にも教鞭をとったことのある池政栄先生が寄稿し、村内の人物も多数登場してくるので、親しみをもって読んでいただきたいとのこと。

また、山田さんは、村の人からもっと本を読んでいただきたい一心で小杉をはじめ、村内の各地域の読書会を指導しておられます。

特に小杉地区の読書会ではこれまで30年間で三百五十冊の本を読まれ、その読書会の活動も新聞に掲載されたこともあるそうです。

「横越花火」物語 ⑤

明治十六年の花火の数は、三十発で花火名も亀田警察署への届出書に明記されているので、平成三年度の「横越大祭実行委員会」では、この時の花火目録を花火業者に提供して、同じ花火が生産可能かどうか照会して、十発だけ調達することが出来たそうで、その十発を平成三年の花火大会の皮切りに打ち上げたわけである。

私は、一昨年の第一回「横越大祭」の初日の十月十三日手術を受ける為に入院したので花火大会は見ていないので平成三年の花火大会との比較は、残念ながら論議できないが、家人の話では途中で雨にたたられ、その上気温が低く寒さに耐えられなくなり、家に引っ込んでしまったそうで、せっかく花火大会が竜頭蛇尾に終わってしまったとか。

第一回に比べて十日の夜は雨を避けて花火大会を成功させる為に、実行委員会で検討した結果、「体育の日」が過去の気象状況から雨が降らないと判断して、変更したことが図星となって当たり、前日から珍しく雨がなく、又、当夜は温く、花火大会は、大成功であった。

これは、実行委員会の先見の明がもたらしたものである。

曽我広見

初防衛戦　5/18(月)
東京都後楽園ホール
対戦フライ級一位　新田渉世
横越ファンクラブ
連絡先　伊藤藤男宅
Tel 025―三八五―二一〇一

短歌募集

▶歌　題　自由
▶締切日　4月30日(木)
▶投稿方法
はがきまたは封書で5首以内、紙上筆名の際も原稿末尾には本名、年齢、住所を明記
▶あて先　横越村中央公民館「文芸作品係」

文芸欄

短歌

（公募作品）

訪中の記念に植えし寒椿赤いつぼみが
雪にうもれぬ　（横越）佐久間　順

暖たかき寒の最中に露路に咲く色あざやけき
撫子の花　（横越）佐久間　ヒロ

福寿草夫婦のごとく寄り添うて二つ咲きおり
朝の陽光に　（横越）佐藤　ユリ

早春の箱根路を馳する若人に家族みんなで
送る声援　（沢海）清水　雅美

灯の下の娘は夜更けまで一心に目数かぞえつ
毛糸編み継ぐ　（横越）建部　すま

移植せし背骨ずれるを恐れつつ耐えて動かず
いのち漂よう　（藤山）田村　文彦

心打つドラマ終われど独り居の語る相手のなくて
過ぎたり　（小杉）中川　マツノ

雪とけし畑の豆の小さき芽が見えて来にけり
朝の窓より　（藤山）野崎　初音

鮮やかに横たわりたる星の群その二ツ三ツ流れ
消えたり　（横越）長谷部　元栄

剪定のおえし柳に朝の風触れ合うこともなしに
揺れいる　（新潟市）細山　四郎

かえってこいよ
3月23日に鮭の稚魚を放流

横越村漁業協同組合（組合長　五十嵐孝助　組合員65名）と横越小学校四年生（約100名）らによって鮭の稚魚を阿賀野川に放流しました。

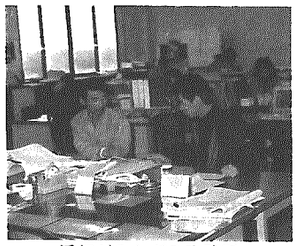
村松町三の宮のふ化場で五センチ程に成長した二十万匹の稚魚は児童たちに〝かえってこいよ〟と呼びかけられながら放流されました。

木津工業団地　企業紹介シリーズ⑦

「熊谷工業㈱

型(かた)にはまらず、あなたの個性で活躍して独創的な企業をめざす。

若さと独創的な熊谷社長


活気がみなぎる事務所

人が会社をつくる 多業種追求で安定化を目ざす

〈工業団地を選んだ理由〉

社員は、新潟市、亀田町、新津市や横越在住がほとんどで求人の際の立地条件がいいのと磐越高速インターが今後の開通が予定されており、既存の高速道も含めて関東方面の取引をやっているので道路条件がいいことがあげられる。

〈村というイメージ〉

関東圏の取引先の方は、中蒲原郡というと、どんなところかと思われるが、こられると新潟駅から遠くないし、さほど問題にならない。

〈取り巻く状況〉

以前亀田で営業していた時土地の面積も少く、建物も暗かったが、移転後は、環境も明るくなり、社員も年商も倍増した。

〈社長の夢〉

山梨、神奈川、千葉、埼玉栃木、長野、福島県方面と取引をしているが、安定生活を送るため、一つの手段として今の業種をやっている。

安定するためには、ある程度の大きさが必要。

そのためには、この業種にこだわらず、いろいろなものにチャレンジしてみたい。

〈21世紀に向けて〉

用地をもっと確保していきたい。

それと、「人が会社をつくるので人を大切にしていきたい。人が育てば、利益がついてくる」という社長の持論である。

社長自身は、30代と若く、社員の平均年齢も25～26才と若さがあり、会社全体に活気がみなぎっている。

業界は、今は、少し不透明という形容ができるのではないか。

ところで売上げの七割が県外の取引先であるが、それを今後も持続しながら、一層安定させるために、今の業種をやっていく。

そのためには、自動塗装機などの機械設備を図り、3K（キツイ、キタナイ、キケン）をなるべくなくしながら変則的であるが第一、第三土曜日を社員は休みにしている。

そして常に人（社員）を大切にしながら事業展開を推進していきたい。

なお最後に、木津工業団地という位置ずけとしての標識を県道や工業団地の搬入口に設置していただきたいと要望しておられました。

会社のあゆみ

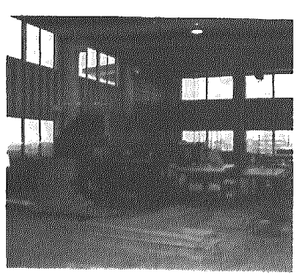
昭和39年3月	操業開始
昭和40年11月	法人（株式）に変更
平成2年	木津工業団地に移転

■主な取引先

トーヨーサッシ㈱
不二サッシ㈱
文化シャッター

●会社の概要

資本金　二、二〇〇万円
年商　平成3年度見込　八億円
従業員数　70名（横越在住5名）
営業品目　金属製建具の設計製造、販売、施工
金属内外装建築金物の設計、製造、販売、施工


最新設備の工場内